



市川司が問う

町の防災訓練への取り組みや今後の課題について問う

問 災害が発生した際、様々な面で協力が必要だと考えられる。現在の自主防災組織について伺う。

答 町長 芳賀町には、自治会単位で組織された14の自主防災組織があり、自分たちの地域は自分たちで守るという意識のもと、地域住民が自主的に結成する防災組織で、平常時には災害に備えた取組を実践し、災害時には被害を最小限に食い止めるための応急活動を行います。自主防災組織の存在は、町にとっても大変重要で自主防災組織の防災力向上が町全体の防災力向上につながると考えています。

問 各防災組織に対して交付金を支出しているとのことですが、どのような物を購入しているのか。

答 総務課長 各組織に13万円を上限に交付し、主に非常食や水、ヘルメット、ラジオ、懐中電灯や簡易トイレなどを各自治会の防災組織でそろえており、一応備蓄品は大体そろっており、今後は食料品、水や有効期限がきたものを常時入れ替えていく形で対応していきます。

問 町の公共施設での火災、地震、風水害などの避難訓練の状況を伺いたい。

答 町長 町の公共施設については、消防法第8条に基づき、その施設ごとに防災管理者を定め、消火訓練や避難訓練等を実施することになっており、消防法をはじめとする各種法令に基づき、年に1回または2回、それぞれ火災を想定した避難訓練および消火、通報訓練などを行っています。訓練は基本的に職員のみで行ってありますが、訓練時間に施設利用者がいる場合は利用者の協力を得て、避難誘導の訓練を行っています。

問 防災訓練は土日に行われているが、平日を想定した訓練や災害時に人数が集まらないことも想定される中で有効な訓練になっているのか。

答 総務課長 町と自主防災組織合同で日曜日に訓練は実施し、多くの方に訓練を通じて災害時の対応を経験してもらおうということで、日曜日に実施しています。人数が少ない状態でも対応できるような体制はそろえておく必要があると思います。

問 芳賀町での防災訓練や避難所運営訓練の計画や課題は。

答 町長 防災訓練には情報の収集や伝達訓練、炊き出し訓練、避難所運営訓練、救命救急訓練など様々な訓練がありますが、幾つかの訓練を総合的に行うことも、一つの訓練について内容を掘り下げ実施することも可能で、どのような訓練が効果的か防災訓練を実施していく中で、改善点を見直しながら実施しています。

問 中学生の防災訓練の参加について町の考え方は。

答 学校教育課長 年2回生徒を対象にした避難訓練をその都度テーマを設けながら実施しています。また防災訓練には家族の方と地域の活動に参加するということは、災害時の対応力や防災意識の向上といった点で生徒の皆さんにとっても良い効果が期待されるところであります。今後、各地域の自主防災組織の防災訓練に生徒の参加を促すことができないか、考えていきたいと思っています。



こえ
聲

私のいたいこと



廣谷 学さん
(下延生)

自動運転交通網の早期導入

芳賀町はLRTという魅力的な交通網を手に入れました。しかし、そこからつながる町内の交通網が十分とは言えず、自家用車がないと便利な生活をする事が出来ません。

今後、高齢化が進み免許返納者が増えることや、若者の車離れを考えると、芳賀町で持続的に生活するには公共交通機関の充実が必要不可欠になります。さらに運転手不足やITの進化を加味すると自動運転の活用が自然の流れだと思います。

芳賀町近郊には自動運転に力を入れている企業の開発拠点があり、自動運転による公共交通機関を導入するには恵まれた環境にあります。既に茨城県常総市などでは実証実験を開始しています。

LRT開業を突破口に、充実した交通網整備を具体的に計画し、魅力ある街づくりをお願いいたします。



北條 可奈子さん
(給部)

移動格差のない町に

宇都宮市と芳賀町間でLRTが開通した。このニュースは全国的にも大きく報道され、注目が高まっているのを感じている。LRTの開通により外出機会の増加による消費の維持等の効果が期待されるとしているが、果たして成果を上げられるのだろうか。LRTの開通に伴ってバスの路線を再編したが、その運行エリアは町内でも中心部に留まっている。そもそも、郊外に住む車等の移動手段を持たない住民にとってはLRTが開通しても乗車駅までの交通手段がなく、利便性は以前と何も変わっていないのである。LRT事業の発足以前から町内に蔓延^{はびこ}っていた中心部と郊外との移動格差。この根本的な問題を解決せずして事業が期待する成果を得ることが出来るのだろうか。郊外にこそ手を伸ばし、耳を傾けてほしい。移動格差のない住みやすい町になることを期待する。



菊池 方敏さん
(東水沼)

次の世代の子供たちのために

昨年、待望の孫が生まれました。私はあと何年生きているか分かりませんが、これから先、孫は100年後に生きて、何を考えているのかを想像したりしてしまいます。100年後、環境問題などまったく心配のない世界になって欲しいと思います。

私は梨農家をしています。年々温暖化によって栽培がやりにくくなってきている中で50年後、100年後ずっとおいしい梨が栽培できて食べられる環境でいてもらいたと思っています。

それから、今年10月13日には道の駅はがで第1回目のスーパーカブのカブフェスが開催されます。私自身もスタッフの一人として参加予定になっております。開催まで協力していただいた皆様には大変感謝しております。

当日は自分の孫を含め、たくさんの方々に新旧スーパーカブを見てもらい、楽しい1日にしてもらえたらと思っています。